

# 社会資本総合整備計画

文化・スポーツ交流拠点における魅力ある都市づくり

第2回変更

令和元年8月15日

神奈川県横須賀市

社会資本総合整備計画 社会資本整備総合交付金

令和01年08月15日

計画の名称	文化・スポーツ交流拠点における魅力ある都市づくり												
計画の期間	平成30年度 ～ 令和02年度 (3年間)										重点配分対象の該当		
交付対象	横須賀市												
計画の目標	<p>本計画における事業実施地区は、スポーツ交流拠点として「追浜駅周辺地区」、文化拠点として「汐入駅周辺地区」の東京湾側にある二つの拠点であり、両地区は、国道357号が追浜公園のある夏島町からヴェルニー公園のある中心市街地まで延伸する将来的な構想があること及び京浜急行電鉄や国道16号による交通網での拠点間連携が図れた関連性が高い地区である。</p> <p>追浜駅周辺地区の既存ストックの運動公園である追浜公園は横浜DeNAベイスターズの総合練習場の誘致による地元町内会や商店街等が連携したまちづくりの推進に取り組み、汐入駅周辺地区では、市内に点在する既存ストックである近代歴史遺産の整備による賑わいの拠点の形成を進めており、それらの事業により、東京湾側の観光客数の増加と両地区における拠点施設周辺内の商店街の空き店舗率の減少を目指す。</p>												
全体事業費 (百万円)	合計 (A+B+C+D)	764	A	733	B	0	C	31	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	4.05	%

番号	計画の成果目標 (定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		2017当初	2019末	2020末
1	両地区 (追浜駅周辺地区及び汐入駅周辺地区) の商店街の空き店舗率			
	「横須賀市商店街調査報告書」から両地区の店舗数 (816件) と空き店舗数 (62件) を抽出し、空き店舗率を算出。賑わいの創出により、両地区 8 件 / 3 年の空き店舗への出店による空き店舗率の 1 % 改善を目指す。 両地区の全体店舗数 (816件) に対する空き店舗数の割合を基準として、8 件出店による改善率 (△ 1 %) を目標値と設定。	8%	%	6%
2	両地区の観光入込客数			
	「横須賀市観光立市推進アクションプラン」の観光客数の目標値の年間増加率 (3.0%) から算出 数値は「横須賀市統計書125. 観光入込客数」の追浜駅周辺及び汐入駅周辺の施設等の数値を抽出	349万人	万人	415万人

備考等	個別施設計画を含む	—	国土強靱化を含む	—	定住自立圏を含む	—	連携中枢都市圏を含む	—
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H30	H31	R02	R03	R04			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
都市公園・緑地等事業	A12-001	公園	一般	横須賀市	直接	横須賀市	—	—	都市公園安全安心・対策事業 都市公園ストック活用によるスポーツ賑わい拠点創出事業（追浜駅周辺地区）（A-1）	外野人工芝改修、ナイター照明改修、スタジアムリニューアル構想策定、観客席改修	横須賀市	■	■	■			410		—
	A12-002	公園	一般	横須賀市	直接	横須賀市	—	—	都市公園安全・安心対策事業 都市公園ストック活用によるスポーツ賑わい拠点創出事業（追浜駅周辺地区）（A-2）	スタジアム便所・階段バリアフリー化	横須賀市	■					45		—
											小計						455		
都市再生整備計画事業	A10-003	都市再生	一般	横須賀市	直接	横須賀市	—	—	都市再生整備計画事業、明治150年を感じるルートミュージアム整備事業（汐入駅周辺地区）	観光交流センター建設、情報板設置、緑化施設等（ストーリーファニチャー・モニュメント）設置	横須賀市	■	■	■			278		—
											小計						278		

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況								
												H30	H31	R02	R03	R04											
一体的に実施することにより期待される効果																											
備考																											
											合計						733										

C 効果促進事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H30	H31	R02	R03	R04			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
都市公園・緑地等事業	C12-001	公園	一般	横須賀市	直接	横須賀市	—	—	追浜駅周辺地区（追浜駅から追浜公園）における周遊性向上。誘導促進事業（C-1）	・周遊ルート拡張検討事業 ・誘導促進事業	横須賀市	■	■	■			31		—
京急追浜駅から追浜公園までの周遊性を向上させ、公園までの誘導促進を図ることで、地域（地元商店街等）との一体感やスポーツによるまちづくりに資する機運醸成を図る。																			
											小計						31		
											合計						31		

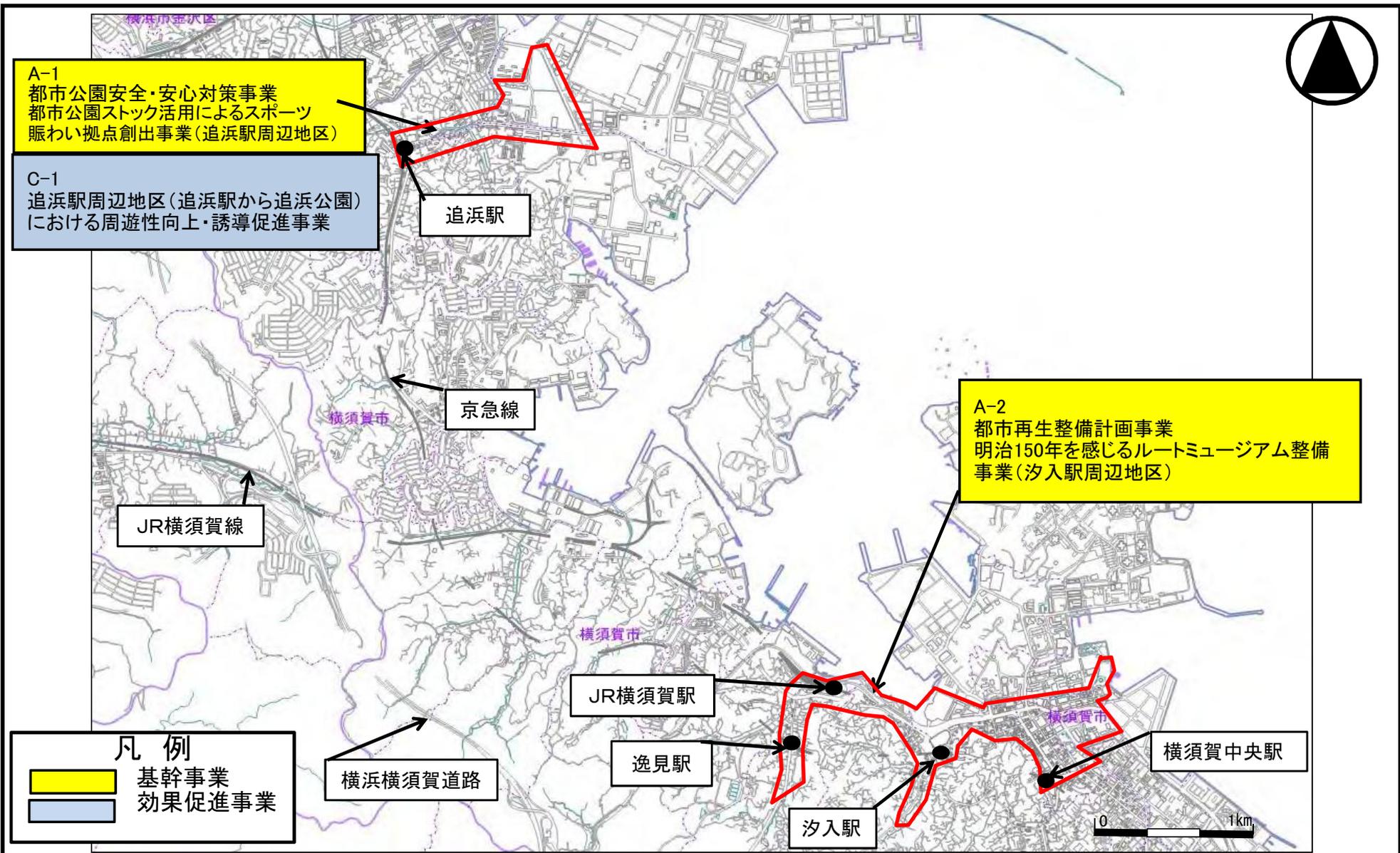
交付金の執行状況

(単位：百万円)

	H30	H31			
配分額 (a)	130	85			
計画別流用増△減額 (b)	0	0			
交付額 (c=a+b)	130	85			
前年度からの繰越額 (d)	0	0			
支払済額 (e)	79	0			
翌年度繰越額 (f)	50	0			
うち未契約繰越額(g)	0	0			
不用額 (h = c+d- e- f)	1	85			
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d)) %	0.76	100			
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

(参考図面) 市街地整備

計画の名称	文化・スポーツ交流拠点における魅力ある都市づくり		
計画の期間	2018年度 ~ 2020年度 (3年間)	交付対象	横須賀市



A-1  
都市公園安全・安心対策事業  
都市公園ストック活用によるスポーツ  
賑わい拠点創出事業(追浜駅周辺地区)

C-1  
追浜駅周辺地区(追浜駅から追浜公園)  
における周遊性向上・誘導促進事業

A-2  
都市再生整備計画事業  
明治150年を感じるルートミュージアム整備  
事業(汐入駅周辺地区)

凡 例  
 基幹事業  
 効果促進事業

(参考)年次計画

(事業費:百万円)

基幹事業								
番号	事業種別	交付対象	事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	平成30年度	令和元年度	令和2年度
A-1	公園	横須賀市	都市公園安全安心・対策事業 都市公園ストック活用によるスポーツ賑わい拠点創出事業(追浜駅周辺地区)	横須賀市	455.0	230.0	20.0	205.0
A-2	都市再生	横須賀市	都市再生整備計画事業 明治150年を感じるルートミュージアム整備 (汐入駅周辺地区)	横須賀市	278.7	25.6	158.4	94.7
計					733.7	255.6	178.4	299.7
関連社会資本整備事業(該当なし)								
番号	事業種別	交付対象	事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	平成30年度	令和元年度	令和2年度
計					0	0	0	0
効果促進事業								
番号	事業種別	交付対象	事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	平成30年度	令和元年度	令和2年度
C-1	公園	横須賀市	追浜駅周辺地区(追浜駅から追浜公園) における周遊性向上・誘導促進事業	横須賀市	31.0	12.9	9.5	8.6
計					31.0	12.9	9.5	8.6
合計					764.7	268.5	187.9	308.3
累計進捗率(%)						35.1%	59.7%	100.0%

# 都市再生整備計画

おっぱまえきしゅうへんちく  
追浜駅周辺地区

都市公園ストック活用によるスポーツ賑わい拠点創出事業

かながわ よこすかし  
神奈川県 横須賀市

令和2年4月  
令和2年9月(第1回変更)

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	神奈川県	市町村名	横須賀市	地区名	追浜駅周辺地区	面積	15.8	ha
-------	------	------	------	-----	---------	----	------	----

計画期間	令和 2 年度 ~ 令和 3 年度	交付期間	令和 2 年度 ~ 令和 3 年度
------	-------------------	------	-------------------

<p><b>目標</b></p> <p>大目標 本地区を中核拠点として、既存ストックの運動公園である追浜公園の整備により賑わい拠点を形成し、集客・交流人口の増加を促進する。</p> <p>小目標 スポーツ交流拠点を創出し、横浜DeNAベイスターズの総合練習場の誘致による地元町内会や商店街等が連携したまちづくりを推進する。</p>
<p><b>目標設定の根拠</b></p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>三浦半島の中心都市である本市は、ペリー来航や明治政府に引き継がれた近代日本のルーツと言える横須賀製鉄所(造船所)から近代産業の技術革新と近代産業化の推進を全国に発信した近代化の起点とも言える場所であり、三方を海で囲まれ、暖冬涼夏な気候と豊富な自然を有し、都心からも約1時間のアクセスから大変暮らしやすい都市ではあるが、少子高齢化の波と市外への流出で人口減少が神奈川県内でも先駆けて顕著な状況下にある。そのため、平成26年度に観光を産業の柱とする観光立市推進条例を制定、また、平成29年7月から就任した新市長を先頭に豊かな自然とビジネスを融合させた「海洋都市構想」、市民はもちろん、観光客がもっと楽しめる「音楽・スポーツ・エンターテインメント都市構想」など横須賀再興プランを策定して、平成30年度(2018年度)から実行していくところである。</p> <p>京急線追浜駅周辺地区は、追浜公園(運動)にプロ野球球団の総合練習場を誘致し、併せて同公園のリノベーションを図るなかでプロスポーツを中心としたまちづくりを推進しており、追浜地域運営協議会(地元町内会や商店街代表者等の地域住民組織)がプロスポーツチームとの連携を図る部会を立上げ、地域・市・球団・鉄道事業者により追浜地域のまちづくりを考える取り組みが進められている。同公園のリノベーション後は、利用者や観戦客数の大幅な増加が見込まれるため追浜公園から追浜駅を結ぶ商店街にて賑わいの波及を目指している。</p> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化並びに市外への流出人口が神奈川県内で顕著であり、観光を産業の柱とする取り組みを加速させる必要がある。</li> <li>・本市を訪れる多くの観光客は、回遊性が低く、滞在時間が短い観光が主流である。</li> <li>・市内の日本遺産を含めた近代遺産の情報を包括的に収集できる施設がなく歴史的資源を活かしきれていない。</li> <li>・中核拠点の施設整備とともに横須賀のアイデンティティの発信と共有が必要であり、また、来訪者が回遊して時間消費ができるよう、地域資源を活かした取り組みが必要である。</li> </ul> <p><b>将来ビジョン(中長期)</b></p> <p>【総合計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市基本計画(2011～2021)においては、「にぎわいをうむプログラム」を重点プログラムの1つに掲げ、持続可能な産業構造や利便性の高い都市構造の構築を図るとともに地域資源を活かした新たな街の魅力を創出し、にぎわいと活力に満ちた都市の実現を目指すこととしており、まちづくり政策にあつては、個性豊かな人と文化が育つまちを目指す中で、多様な文化の継承、発展、創造として、近代化遺産の保存・活用に関する取り組みを推進している。</li> <li>・本市文化振興基本計画(2014～2021)においては、文化の次世代への継承として、郷土の歴史や文化的遺産の継承や地域の身近な歴史や文化の継承を目指すとともに、文化による交流の推進として、文化を活かした観光や産業を振興するとしている。</li> <li>・横須賀市観光立市推進計画(2016～2025)においては、魅力的な地域資源がある一方で、創設150周年を契機に脚光を浴び始めた、横須賀製鉄所(造船所)など、十分に活用されていない資源も多数残されていることから、「観光魅力」の創出戦略や「観光需要」の獲得戦略も掲げている。</li> <li>・その他、本市都市計画マスタープランでも「拠点ネットワーク型都市構造」の形成を目指していることや、まち・ひと・しごと創生総合戦略においても、歴史的資源である横須賀製鉄所(造船所)の啓発活動など、文化や歴史を活かした取り組みを推進している。</li> </ul>



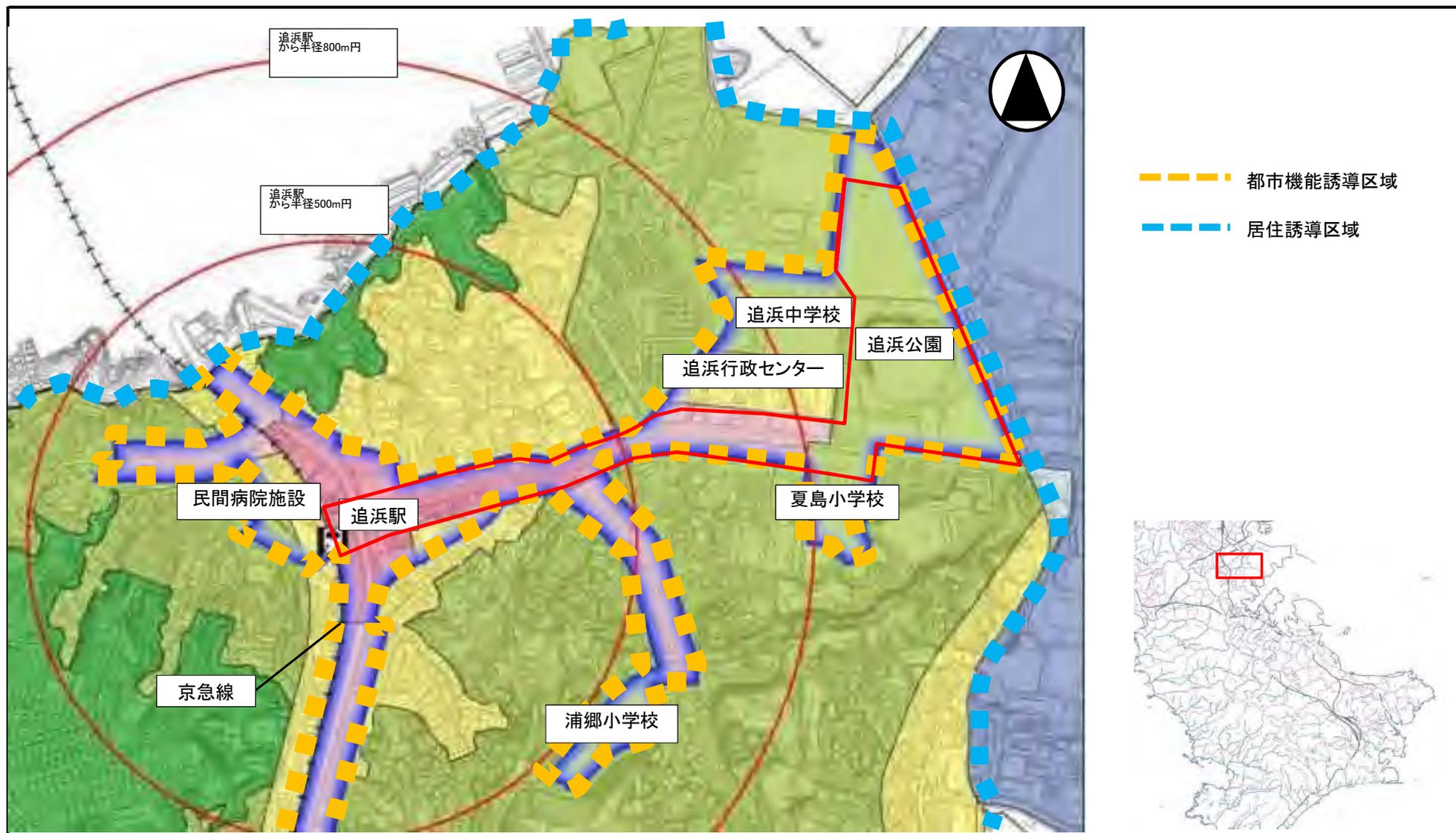
都市再生整備計画の整備方針等

様式(1)-③

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・追浜公園は、昭和24年に供用開始。京浜急行追浜駅の東側0.9kmに位置しており、運動施設である市営球場は昭和24年に開設し、県高野連の神奈川大会や市民野球等で利用されている。横須賀スタジアムは開設から20年経過し、施設の劣化が進んでいるため、「横須賀市公園施設長寿命化計画」に基づき施設の更新を順次行っており、令和2年度にスタジアムの照明設備改修、駐車場天井ネットの増設を実施する。</p> <p>・京急追浜駅から追浜公園までの周遊性を向上させ、公園までの誘導促進を図ることで、地域(地元商店街等)との一体感やスポーツによるまちづくりに資する機運醸成を図る。これにより基幹事業(公園)により形成される「賑わい拠点」効果を地域(地元商店街等)に波及させ、持続可能で活力ある循環(公園利用者増による地域経済活性化)の仕組みの構築に貢献する。</p> <p>・公共施設の効率的かつ効果的な遂行を図る。</p>	<p>○基幹事業</p> <p>・横須賀スタジアム改修(公園)</p> <p>○提案事業</p> <p>・拠点間を結ぶ遊歩道空間創出の調査検討(事業活用調査)</p> <p>・公共施設効果分析調査(事業活用調査)</p>
<p>【歴史的資源を活用した魅力の向上】</p>	
<p>【既成市街地外縁部における生活機能の確保】</p>	
<p>その他</p>	
<p>【まちづくりの住民参加】</p> <p>・京浜急行追浜駅の横浜DeNAベイスターズラッピングやファンフェスティバル、ファーム試合開催日における快速特急電車(通常時追浜駅に快速特急は停車しない)の臨時停車等の協力。(本市開催プロ野球ファンフェスティバル(令和元年11月24日。来場者数約1万人。夏島貝塚通り(追浜駅前から妙法橋交差点)の歩行者天国。京急追浜駅ホーム案内板へのプロ野球選手のラッピング。)</p> <p>・プロ野球公式戦開催による追浜地域への集客、市民へのスポーツの普及・振興事業を実施する。少年野球教室・チアリーディング教室の開催の他、ボールパーク構想として野球だけではなく来訪者がエンターテイメント的な楽しみ方を実践していく。</p> <p>・追浜地域運営協議会の部会「横浜DeNAベイスターズ協議会」において、横浜DeNAベイスターズと連携した地域の賑わいづくり事業を実施する。商店街アーケードの意匠統一やポスター掲出等により地元の盛り上がりを醸成する。また、オリジナルグッズの開発を行うとともに横浜DeNAベイスターズファーム公式戦における「よこすかカレーゲーム」の実施(平成12年から)、市内の飲食店や商店街等と連携した来訪者向けのメニューやプランを開発する。</p> <p>・追浜駅から追浜公園までを結ぶ商店街区間の各種案内や、商店街独自の集客イベントの開催及びオリジナルグッズを販売</p> <p>・路線バスの運行制限により、追浜銀座通り商店街の歩行者天国を活用した賑わいづくりへの協力</p> <p>【官民連携体制】</p> <p>・横浜DeNAベイスターズファーム公式戦において、地元商店街による出店や追浜の工場で作る工業製品を展示するなど追浜の魅力を楽しめるイベントゲーム「追浜デー」の実施(平成27年から)</p> <p>・追浜駅周辺地区の商店街が行うイベント「おっぱままつり」等への横浜DeNAベイスターズの選手の出演やサイン会の実施</p> <p>・横浜DeNAベイスターズとの連携による「食フェス(グルメイベント)」やスタジアムの大型ビジョンを活用したパブリックビューイングや野外シネマの企画による賑わいのある公園事業の実施</p> <p>・地元商店街と地元企業(日産自動車(株)追浜工場)が中心となって実施する「全国車椅子マラソン日産カップ追浜チャンピオンシップ」の実施(平成22年から)</p> <p>・情報発信力が高いプロ野球チームや交通事業者を通じた本市のプロモーション活動の実施</p> <p>【政策関連連携体制】</p> <p>・政策推進部、環境政策部、文化スポーツ観光部(平成30年度から)、都市部の関係課長会議による各拠点整備の進捗確認</p> <p>・当該地区の賑わい創出に係るプロジェクトチーム(政策推進部、環境政策部、文化スポーツ観光部、市民部、上下水道局)の設立</p> <p>・都市計画マスタープラン・立地適正化計画と各拠点整備の管理</p> <p>・地域等との連携、賑わい創出の提案・実行状況の管理</p> <p>【事業完了後の継続性、人材育成、維持管理費の低減】</p> <p>・横須賀スタジアムで行われる横浜DeNAベイスターズ公式戦への観客に向けたオリジナルグッズやメニューの企画・開発を民間事業者が行う。</p> <p>・追浜、汐入両地区の運動による相乗効果を目指したイベントやキャンペーンを両地区の商店街等が継続的に実施する。</p> <p>・横浜DeNAベイスターズファーム公式戦の試合数増加による横須賀スタジアムの利用回数及び利用率の上昇に伴う会場利用料の増収、観客数の増加やメディアへの露出機会の増加により、スタジアム内フェンスへの広告掲出数及び広告料収入の増加が見込まれることで、相対的に維持管理費が低減される。(試合数40→100試合、広告収入0→300万円、ニコニコ動画ネット配信)</p> <p>【官民連携事業】</p> <p>※都市再生整備計画区域内で、道路占有特例、河川敷地占有、歩行者経路協定、都市利便増進協定を活用する場合には記載する。</p>	

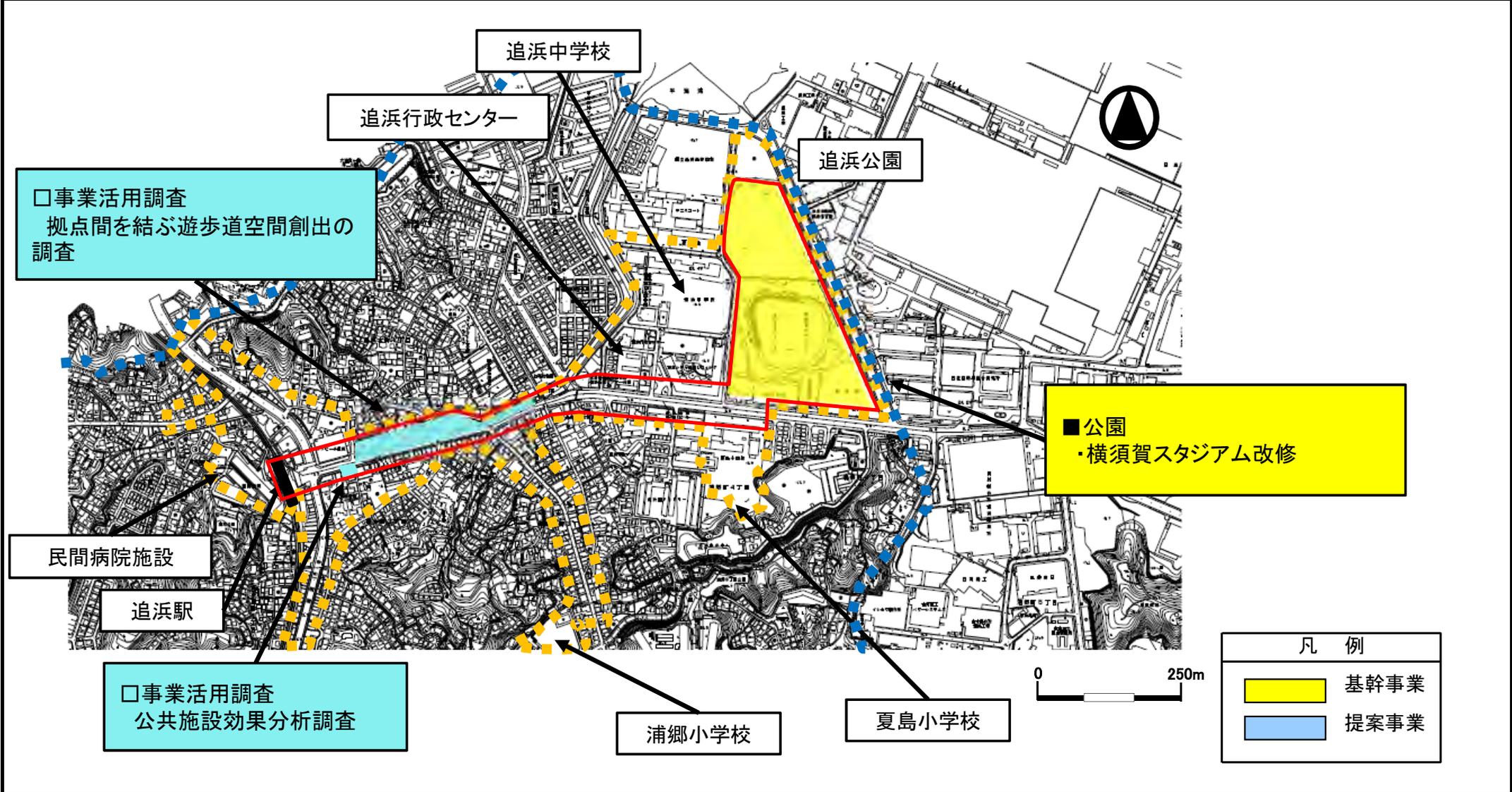


追浜駅周辺地区(神奈川県横須賀市)	面積	15.8 ha	区域 夏島町、浦郷町4丁目、追浜東町3丁目、追浜本町1丁目、追浜本町2丁目、追浜町3丁目
-------------------	----	---------	---



追浜駅周辺地区(神奈川県横須賀市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	大目標 本地区を中核拠点として、既存ストックの運動公園である追浜公園の整備により賑わい拠点を形成し、集客・交流人口の増加を促進する。	代表的な指標	追浜駅周辺地区における商店街の空店舗率 (%/年)	6.8%/年 (2017年度) → 6.2%/年 (2021年度)
	小目標 スポーツ交流拠点を創出し、横浜DeNAベイスターズの総合練習場の誘致による地元町内会や商店街等が連携したまちづくりを推進する。		駅周辺地区の観光入込客数 (万人/年)	16万人/年 (2017年度) → 19万人/年 (2021年度)
			アンケートで「住みやすい」と回答する追浜地区の人数 (人/年)	4,600人/年 (2019年度) → 5,200人/年 (2021年度)



# 都市再生整備計画

しおいりえきしゅうへんちく  
汐入駅周辺地区

かながわ よこすかし  
神奈川県 横須賀市

第4回変更

令和2年 9月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォーカーブル推進事業	□

## 目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	神奈川県	市町村名	横須賀市	地区名	汐入駅周辺地区	面積	71.5	ha
-------	------	------	------	-----	---------	----	------	----

計画期間	平成 30 年度 ~ 令和 2 年度	交付期間	平成 30 年度 ~ 令和 2 年度
------	--------------------	------	--------------------

### 目標

大目標 本地区を中核拠点として、市内に点在する既存ストックである近代歴史遺産の整備により賑わい拠点を形成し、集客・交流人口の増加を促進する。

小目標 それぞれの拠点をネットワーク化することで交流拠点を創出し、官民連携で地域経済の活性化を図り、魅力あるまちづくりを推進する。

### 目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

三浦半島の中心都市である本市は、ペリー来航や明治政府に引き継がれた近代日本のルーツと言える横須賀製鉄所(造船所)から近代産業の技術革新と近代産業化の推進を全国に発信した近代化の起点とも言える場所であり、三方を海で囲まれ、暖冬涼夏な気候と豊富な自然を有し、都心からも約1時間のアクセスから大変暮らしやすい都市ではあるが、少子高齢化の波と市外への流出で人口減少が神奈川県内でも先駆けて顕著な状況下にある。そのため、平成26年度に観光を産業の柱とする観光立市推進条例を制定、また、平成29年7月から就任した新市長を先頭に豊かな自然とビジネスを融合させた「海洋都市構想」、市民はもちろん、観光客がもっと楽しめる「音楽・スポーツ・エンターテインメント都市構想」など横須賀再興プランを策定して、平成30年度(2018年度)から実行していくところである。

横須賀製鉄所(造船所)建設に大きく貢献したヴェルニーの功績を称え、整備されたヴェルニー公園内に、米海軍基地内の小高い丘の上に明治2年から平成15年まで約130年間現存した東日本最古の西洋木造建築で、横須賀造船所(製鉄所)の当時の造船技術監督のティボディエ氏の邸宅を、外観は写真資料からの推定復原、現代建築工法及び建築部材を用いて行い、横須賀の近現代の歴史を概観できる機能や、サテライトへと回遊させるための機能を集約してガイダンスセンターとして整備することで、鉄道駅(JR・京急)やバス路線に近く、市外からの多くの来訪、市内各地域への回遊両面での利便性が高い立地の汐入駅周辺地区に観光の中核拠点として交流の場や、ボランティアガイドの活動拠点となるだけでなく、付近の軍港クルーズや地元商店街などのイベントやご当地飲食、横須賀芸術劇場の音楽やエンターテインメントを堪能するなど、本市の大きな都市拠点の1つとして再生コンパクトシティの中心的な一役を担うものとなる。

### まちづくりの経緯及び現況

本市の中心市街地である横須賀中央駅周辺の北側に位置するヴェルニー公園から米海軍基地がある汐入駅周辺地区は、その近代化の起点ともいえる横須賀製鉄所(造船所)に臨む場所であり、また、首都東京に近いという立場から、首都防衛のために高度な技術を有する建築構造物が造られ、現在も市内にはその遺構が数多く残っているが、これまで積極的に本市の豊富な文化資源・観光資源である近代歴史遺産を活用しきれていないのが現状である。

しかしながら、平成26年度の横須賀製鉄所(造船所)創設150周年や、観光を産業の柱とする「観光立市推進条例」の制定、さらには平成28年4月25日には、本市を含めた旧軍港4市(他に呉市・佐世保市・舞鶴市)の近代化の歴史に関するストーリーが日本遺産に認定され、日本の近代化に大きな貢献をした横須賀という都市のイメージを将来に向け、伝えるべきタイミングであると考え。

### 課題

- ・少子高齢化並びに市外への流出人口が神奈川県内で顕著であり、観光を産業の柱とする取り組みを加速させる必要がある。
- ・本市を訪れる多くの観光客は、回遊性が低く、滞在時間が短い観光が主流である。
- ・市内の日本遺産を含めた近代遺産の情報を包括的に収集できる施設がなく歴史的資源を活かしきれていない。
- ・中核拠点の施設整備とともに横須賀のアイデンティティの発信と共有が必要であり、また、来訪者が回遊して時間消費ができるよう、地域資源を活かした取り組みが必要である。

### 将来ビジョン(中長期)

- ・本市基本計画(2011~2021)においては、「にぎわいをうむプログラム」を重点プログラムの1つに掲げ、持続可能な産業構造や利便性の高い都市構造の構築を図るとともに地域資源を生かした新たな街の魅力を創出し、にぎわいと活力に満ちた都市の実現を目指すこととしており、まちづくり政策にあっては、個性豊かな人と文化が育つまちを目指す中で、多様な文化の継承、発展、創造として、近代化遺産の保存・活用に関する取り組みを推進している。
- ・本市文化振興基本計画(2014~2021)においては、文化の次世代への継承として、郷土の歴史や文化的遺産の継承や地域の身近な歴史や文化の継承を目指すとともに、文化による交流の推進として、文化を活かした観光や産業を振興するとしている。
- ・横須賀市観光立市推進計画(2016~2025)においては、魅力的な地域資源がある一方で、創設150周年を契機に脚光を浴び始めた、横須賀製鉄所(造船所)など、十分に活用されていない資源も多数残されていることから、「観光魅力」の創出戦略や「観光需要」の獲得戦略も掲げている。
- ・その他、本市都市計画マスタープランでも「拠点ネットワーク型都市構造」の形成を目指していることや、まち・ひと・しごと創生総合戦略においても、歴史的資源である横須賀製鉄所(造船所)の啓発活動など、文化や歴史を活かした取り組みを推進している。



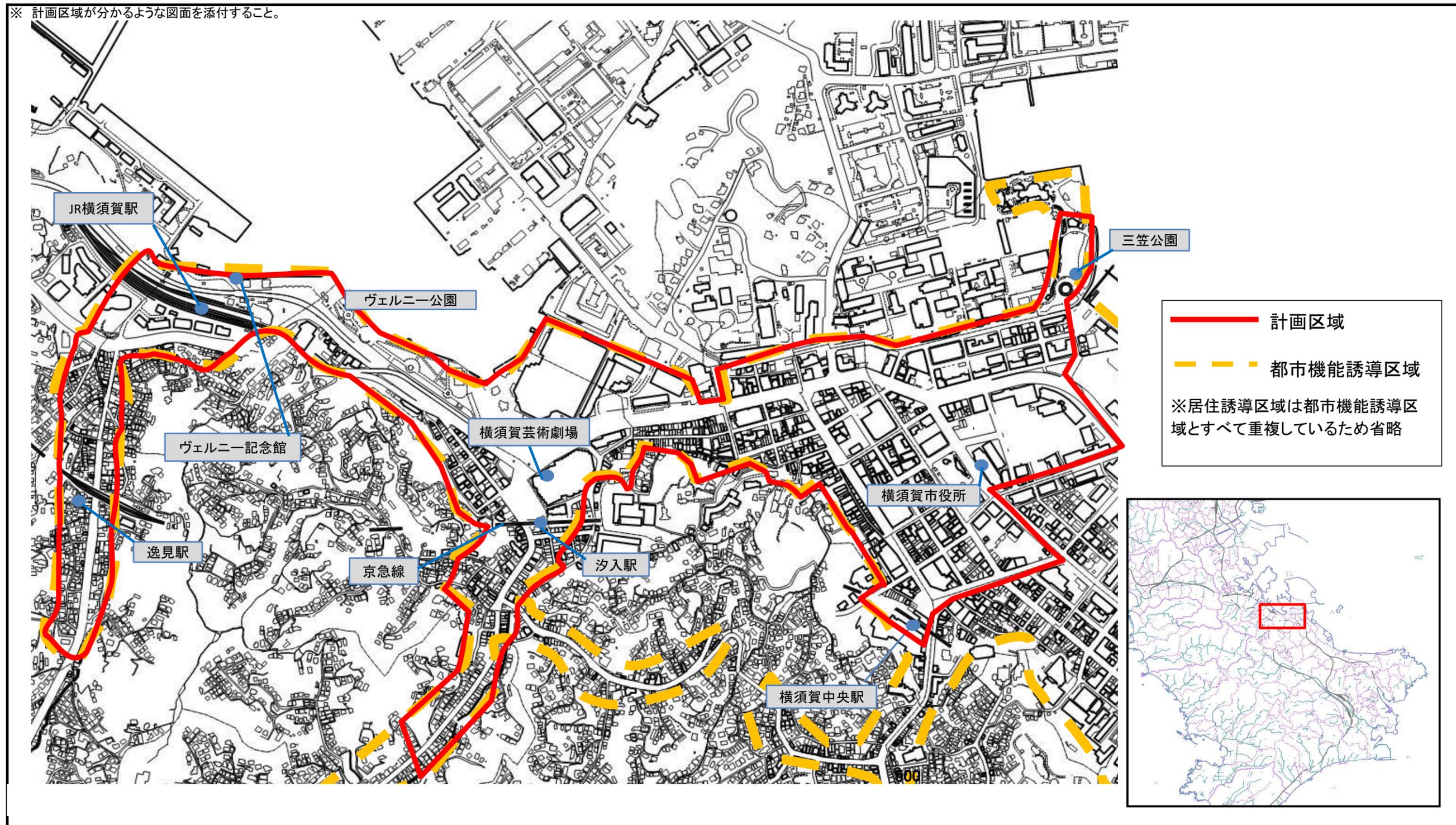
計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内に点在する既存ストックである近代歴史遺産を回遊するための中核拠点として、ガイダンスセンター(観光交流センター)を整備する。</li> <li>・市内に近代歴史遺産が数多く点在するという本市の特性を活かし、ガイダンスセンターと近代歴史遺産を結ぶ循環バスや自転車シェアリング、軍港クルーズによる回遊性を高める取り組みを官民連携で行う。</li> <li>・外国語での案内表記にも対応できるようにQRコード付き情報板を設置して周知を図るとともに、ロードバイクでの来訪時に備えて、近代歴史遺産や周辺風景をバックにSNSへのアップも想定してデザインサイクルスタンドを設置することで、更なる広報ツールとして拡散し、来訪者を増やしていく。</li> </ul>	<p>○<b>基幹事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光交流センター(都市再生整備計画事業)(高次都市施設)</li> <li>・情報板(都市再生整備計画事業)(地域生活基盤施設)</li> <li>・緑化施設等(都市再生整備計画事業)(高質空間形成施設)</li> </ul> <p>○<b>関連事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・VR等活用事業(地方創生推進交付金)</li> </ul> <p>○<b>提案事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光交流センター内のデジタルコンテンツ制作(地域創造支援事業)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方創生推進交付金を活用したVR等の最新映像技術を駆使して、近代化遺産を継承・体感できるようにする。また、市内の大規模イベント(「咸臨丸フェスティバル」,「久里浜ペリー祭」など)や商店街等と連携を図り、VRを体験する機会を創出し、近代化遺産の理解向上や地域資源や文化継承への意識向上を促す。併せて、VRの活用にあたり、地域の特性や専門性を活かした観光事業者等と連携体制を構築し、おもてなしを担う人材育成を民間と協働で行っていく。</li> </ul>	<p>○<b>基幹事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光交流センター(都市再生整備計画事業)(高次都市施設)</li> </ul> <p>○<b>関連事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・VR等活用事業(地方創生推進交付金)</li> </ul> <p>○<b>提案事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光交流センター内のデジタルコンテンツ制作(地域創造支援事業)</li> </ul>
<p><b>その他</b></p>	
<p><b>【まちづくりの住民参加】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・汐入駅周辺地区のドブ板通り商店街では、年4回の「ドブ板バザール」を開催し、まちの賑わいづくりイベントを行っている。</li> <li>・ドブ板通り商店街を含む汐入駅周辺地区の商店街において、ドルが使える街「ドル街横須賀キャンペーン」や、スカジャンを着て買い物をする割引やお得なサービスを受けられる「スカジャン割」などに参画し、本市の集客促進及び来訪者へのサービス提供による満足度向上に寄与している。</li> </ul> <p><b>【政策間連携体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内閣府「地方創生推進交付金」を活用し、(仮称)横須賀市近代遺産ガイダンスセンターを中核拠点とした官民連携でのルートミュージアムの構築による周辺環境の整備(走水低砲台跡)及び近代歴史遺産に関するデジタルコンテンツの制作をする。</li> <li>・文化庁補助を一部活用し、市内に点在する猿島砲台跡、千代ヶ崎砲台跡の整備を進める。</li> <li>・ペリー記念館において、本市単独での整備を進める。</li> <li>・都市部、経営企画部、環境政策部による情報を共有し、都市計画マスタープラン・立地適正化計画と当該事業整備の方向性を検証していく。</li> <li>・教育委員会、環境政策部、文化スポーツ観光部、都市部の関係課長会議による各拠点整備の進捗確認</li> <li>・当該地区の賑わい創出に係るプロジェクトチーム(政策推進部、環境政策部、文化スポーツ観光部、市民部、上下水道局)の設立</li> </ul> <p><b>【事業完了後の継続性、人材育成、維持管理費の低減】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)横須賀市近代遺産ガイダンスセンターや近代歴史遺産を含む、本市を訪れる観光客に関する来訪動機やニーズ等に関するデータを観光事業者や商店街等が自由に使える情報として提供し、ツアーやイベント、商品の開発等に活用させる。</li> <li>・タクシー事業者が行う観光タクシー認定ドライバーの認定者及び新規認定者の育成のため、定期的な講習会を行う。</li> <li>・NPOよこすかシティガイド協会と連携して、定期的なガイド向けの研修により、継続的なガイドの質の向上を図る。</li> <li>・新たなガイド人材の確保のため、広報誌やホームページを通して、新たなガイドを広く募集するとともに、市内の歴史研究団体である横須賀開国史研究会や三浦一族研究会との連携により、新たな人材発掘を行う。</li> <li>・(仮称)横須賀市近代遺産ガイダンスセンターの建設によって観光案内の新たな拠点ができ、市内各地へと波及する起点として人が集う場所となる。建物周辺ではオープンカフェ、マルシェ等のエリアマネジメントの取組みを実施することにより民間事業者の収益増が見込まれる。さらに、エリア内には観光バスの駐車場も整備していることから、ツアーの一拠点として活用されることにより、観光事業者のツアー数の増(売上増)、駐車場収入の増、市内消費額の増が見込まれ、全体の取組みにより維持管理費の負担は低減される。</li> </ul>	



都市再生整備計画の区域

<p>汐入駅周辺地区(神奈川県横須賀市)</p>	<p>面積</p>	<p>71.5 ha</p>	<p>区域 汐入町1丁目、汐入町2丁目、本町、小川町、大滝町、若松町1丁目、東逸見町1丁目、東逸見町2丁目</p>
--------------------------	-----------	----------------	---

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



汐入駅周辺地区(神奈川県横須賀市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	大目標 本地区を中核拠点として、市内に点在する既存ストックである近代歴史遺産の整備により賑わい拠点を形成し、集客・交流人口の増加を促進する。 小目標 それぞれの拠点をネットワーク化することで交流拠点を創出し、官民連携で地域経済の活性化を図り、魅力あるまちづくりを推進する。	代表的な指標	汐入駅周辺地区における商店街の空き店舗率 (%) / 年	8.0% / 年 (2017年) → 6.8% / 年 (2020年)
			汐入駅周辺地区の観光入込客数 (万人) / 年	349万人 / 年 (2017年) → 415万人 / 年 (2020年)
				→

